

第 4 次広島市食育推進計画の中間評価について

1 中間評価について

本年（令和 6 年度）は、第 4 次広島市食育推進計画の中間年度に当たることから、目標の妥当性や達成状況について中間評価を実施する。

2 中間評価の方法について

本計画において、目標値を設定している 22 指標について、計画策定時の値（ベースライン値）と直近の値である中間実績値を比較する。目標の達成状況についての評価は、中間実績値が目標に向けて、目標達成（◎）、目標は達成していないがベースライン値から改善（△）、ベースライン値から悪化（▼）、ベースライン値未把握のため評価不能（－）で分類する。

これらの目標値に対する評価をもとに、目標値の見直しの必要性や、計画後半における重点取組について検討する。

なお、中間実績値は、「食育に関する調査」（別添参考資料 2）、「児童生徒学習意識等調査」、「“ひろしまそだち”マーク認知度調査」の調査結果や、実績値及び申請数によって得られた数値である。

○目標の達成状況の評価基準について

ベースライン値と 中間実績値を比較 ▶	◎ 目標達成
	△ 目標は達成していないが、ベースライン値から改善
	▼ ベースライン値から悪化
	－ 評価不能（ベースライン値未把握のため）

3 中間評価結果について

(1) 全体の達成状況

進捗状況	評価指標数（％）
◎ 目標達成	1（4.6％）
△ 目標は達成していないが、ベースライン値から改善	3（13.6％）
▼ ベースライン値から悪化	16（72.7％）
－ 評価不能（ベースライン値未把握のため）	2（9.1％）
合計	22（100％）

(2) 各目標項目の達成状況

ア ベースライン値から改善した指標について【◎△】

【基本方針① 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進】

(1) 栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値	評価
元気じゃけんひろしま 21 協賛店・団体 (食生活協賛)の認証数	415 店舗	417 店舗	700 店舗	△

【基本方針② 持続可能な食を支える食育の推進】

(3) 農林水産業の重要性を理解し実感する活動の促進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値	評価
農林水産業の体験交流人口	68 万人	77 万人	106 万人 以上	△

(4) ひろしまの地産地消を普及する取組の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値	評価
学校給食における地場産物の使用割合 (品目別使用割合の平均)	31.3%	41.9%	40%以上	◎

(5) 食品や食材の廃棄を減らす取組の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値	評価
「環食」を実践している人の割合	79.7%	81.9%	83%以上	△

イ ベースライン値から悪化した指標について【▼】

【総合評価指標】

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
健全な食生活を実践する市民の割合	70.6%	65.4%	80%以上

<調査結果の概要>

・男性が女性に比べて 5.8 ポイント低く、就業等状況別では学生（大学生等）が、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。

【基本方針① 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進】

(1) 栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
「和食」を実践している人の割合	67.1%	66.5%	80%以上

<調査結果の概要>

・男性が女性に比べて 11.5 ポイント低く、男性女性ともに 20 歳代が最も低かった。
・就業等状況別では学生（大学生等）が、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。

(2) 健康的な食べ方（規則正しく、よく噛んで、味わう等）の実践に向けた取組の推進

評価指標		ベースライン値	中間実績値	目標値
朝食を毎日食べることが習慣になっている子どもの割合	小学生	95.5%(R3 年度)	94.9%	100%
	中学生	94.0%(R3 年度)	92.4%	
朝食を毎日食べることが習慣になっている若い世代の割合	20 歳代男性	72.3%	59.4%	85%以上
	20 歳代女性	77.3%	66.3%	
	30 歳代男性	76.1%	63.7%	
	30 歳代女性	85.7%	80.1%	
よく噛んで食べるなど食べ方に配慮する人の割合		73.5%	67.7%	80%以上

<調査結果の概要>

・朝食を毎日食べることが習慣になっているこどもの割合について、「全く朝食を食べない」と回答した中学生が、ベースライン値から増加した。
・朝食を毎日食べることが習慣になっている若い世代の割合について、男女ともに 20 歳代が最も低く、就業等状況別では学生（大学生等）が、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。
・よく噛んで食べるなど食べ方に配慮する人の割合は、30 歳代男性が最も低く、就業等状況別では勤労者、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。

【基本方針② 持続可能な食を支える食育の推進】

(1) 食を通じたコミュニケーションの機会を増やす取組の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
「輪食」を実践している人の割合	69.5%	67.7%	80%以上

< 調査結果の概要 >

- ・男性が女性に比べて9.8ポイント低く、男性女性ともに70歳以上が最も低かった。
- ・就業等状況別では学生（大学生等）が、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。

(4) ひろしまの地産地消を普及する取組の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
“ひろしまそだち”を 購入したことがある世帯の割合	69.9% (H30年度)	59.9%	70%以上

【基本方針③ 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育】

評価指標		ベースライン値	中間実績値	目標値
健全な食生活を実践する 若い世代の割合	20歳代男性	57.2%	54.4%	70%以上
	20歳代女性	64.4%	60.6%	
	30歳代男性	63.0%	54.4%	
	30歳代女性	74.0%	63.4%	

【基本方針④ 全市一体となった広島らしい食育推進運動の展開】

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
「わ食の日」を認知している人の割合	31.0%	28.7%	50%以上

< 調査結果の概要 >

- ・男性が女性に比べて21.8ポイント低く、特に30歳代男性が最も低かった。
- ・全年代で男性が低く、就業等状況別では勤労者が、世帯構成別では一人暮らしが最も低かった。
- ・反対に、就業状況別では学生（中学生・高校生）が6割を超え、世帯構成別では18歳未満の子どもがいる世帯が4割を超え、それぞれ最も高かった。

ウ 評価不能の指標について【－】

【基本方針① 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進】

(1) 栄養バランスや減塩に配慮した食生活の推進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	未把握 (参考値(国): 36.4%)	47.3%	50%以上

【基本方針② 持続可能な食を支える食育の推進】

(2) 郷土料理や広島食文化への理解と伝承の促進

評価指標	ベースライン値	中間実績値	目標値
郷土料理や行事食を 月1回以上食べている人の割合	未把握 (参考値(国): 44.6%)	34.5%	50%以上

4 評価結果を踏まえた目標値の見直しについて

今回の中間評価では、以下のとおり全22指標について、目標値は見直しせず、最終評価まで引き続き目標値に向かって取組を進めることとする。

項目	指標数	目標値の再設定の有無等
中間実績値が目標値を達成していない指標	21	目標を達成していないため、目標値はそのまま維持し、再設定はしない。
目標値を達成した指標	1	【指標】「学校給食における地場産物の使用割合」 【説明】 ベースライン値から中間実績値にかけて全体としては増加し、目標を達成することができたが、過去5年間の推移では、年度により増減があり、品目別にみると減少している青果物もある状況である。また、地場産物を調達できる品目も限られていることから、引き続き取組を行い、これまでと同じ目標値を維持することを目指すこととする。
合 計	22	